

平和への誓い

昭和20年(1945年)8月6日午前8時15分。

突然のすどい閃光と爆風で、数え切れない多くの尊い命が失われました。

あの日、建物疎開や工場で働くために出かけていった子どもたちは、63年たった今も帰りません。「いってきます。」と出かけ、「ただいま。」と帰ってくる。原爆は、こんな当たり前の毎日を一瞬で奪いました。

原爆は、やっと生き残った人たちも苦しめます。

放射線の影響で突然病に倒れる人。

あの日のことを「思い出したくない」と心を閉ざす人。

大切な家族や友人を亡くし、「わしは、生きとってでもええんじゃろうか?」と苦しむ人。

でも、生き抜いてくれた人たちがいてくれたからこそ、私たちまで命が続いています。平和な街を築き上げてくれたからこそ、私たちの命があるのです。

今、私たちは、生き抜いてくれた人たちに「ありがとう」と心の底から言いたいです。

忘れてはならない原爆の記憶や、核兵器に対する怒りは、年々人々の心から薄れていくと思います。しかし、人の命を奪う戦争や暴力は、遠い過去のことではありません。

この瞬間にも、領土の取り合い、宗教の違いなどによる争いによって、小さい子どもや大人、私たちと年齢の変わらない子どもたちの命が奪われています。

失われた命の重さを思う時、何も知らなくて平和は語れません。

事実を知る人がいなくなれば、また同じ過ちがくり返され、戦争で傷つき、命を失った人たちの願いは、かき消されてしまいます。だから、私たちは、大きくなった時、平和な世界にできるよう、ヒロシマで起きた事実に学び、知り、考え、そして、そのことをたくさんの人に伝えていくことから始めます。

また、私たちは、世界の人々に、平和記念式典が行われ、深い祈りの中にある広島に来てほしいと思っています。ヒロシマのこと、戦争のことを知り、平和の大切さを肌で感じてほしいのです。

そして今こそ、平和を願う子どもたちの声に耳をかたむけてほしいのです。

みなさん、見ていて下さい。

私たちは、原爆や戦争の事実に学びます。

私たちは、次の世代の人たちに、ヒロシマの心を伝えます。

そして、世界の人々に、平和のメッセージを伝えることを誓います。

平成20年(2008年)8月6日

こども代表 広島市立幟町小学校6年

今井 穂花

広島市立吉島東小学校6年

本堂 壮太